

第16回竹羽会研修会報告

日時：平成23年11月26日（日）15：00～17：00 場所：エル大阪 7階708号室
講師：史野 根生先生（大阪府立大学）、小柳 磨毅先生（大阪電気通信大学）
参加者：82名（会員41名、非会員41名）



竹羽会より記念品をお渡しさせていただきました

史野根生教授の御退官に添えて 大阪電気通信大学医療福祉工学部 小柳 磨毅

平成10年からの永きにわたって、短期大学部を含めて大阪府立大学で整形外科学やリハビリテーション医学を講義された史野根生教授が、本年の3月をもって退官されることとなりました。大変僥越ですが、人生の師と仰ぐ史野先生の私が知る御業績のごく一部を紹介し、理学療法士教育への御貢献に感謝したいと思います。

私が昭和59年に理学療法士となって、初めて勤務したのは史野先生のおられた大阪大学医学部附属病院でした。スポーツ医学の知識はほとんど皆無であった小生は、幸運にも診察室で史野先生から直々にLachman testをはじめ、スポーツ傷害膝の病態や検査手技を教えていただくことが出来ました。「コツン」というend pointを触知できた感動は未だ忘れがたく、以来、30年近くにわたって実に多くのことを先生から教えていただいています。

1987年にサンフランシスコで開催されたアメリカスポーツ整形外科学会（AAOSM）は、私の初めての海外旅行でもありました。カルチャーショックとコンプレックスから身を縮めるようにして学会発表を聞いておりましたが、実に多くの欧米人が史野先生の論文を引用しているのを見て、随分と勇気づけられました。当時、史野先生は世界に先駆けて同種腱による前十字靭帯（ACL）再建手術の優れた成績を報告されており、改めて先生の国際的な高い評価を実感しました。

講義を受けられた皆さんは、史野先生がよく「要するに・・・」とおっしゃっていたのを覚えておられると思います。一緒にお仕事をさせていただく中で、先生の驚異的な記憶力とともに膨大な知識を論理的に整理される能力、さらにそれらを基に革新的な技術を創造され続ける力にいつも敬服しています。

府立大学で再びご一緒させていただいた時から、史野先生が受け持たれたリハビリテーション医学の中で「ACL再建術後のリハビリテーション」を紹介してきました。正直に申し上げますと、この講義のお手伝いはかなりのプレッシャーでした。この時に限ってPCがフリーズしたり、「スライドが見にくいなあ」などのダメ出しが出ると、全身に汗が噴き出し、生きた心地がしませんでした（笑）。

史野先生の他の追随を許さない臨床、研究のお仕事は世界中の人から尊敬されていますが、先生の回りに多くの方々が集われるのは、お人柄によるところも大きいと思います。随分昔に教えていただいた「やられて嫌だったことはするな」という人生訓は、今後も座右の銘にしていきたいと思います。

最後に史野先生が国際的なお仕事を数多くされてきた背景には、理学療法学科教員の皆様による御支援も大きかったと拝察し、改めて敬意を表したいと思います。

今後の史野先生と理学療法学科のますますのご発展を心より祈念しております。

